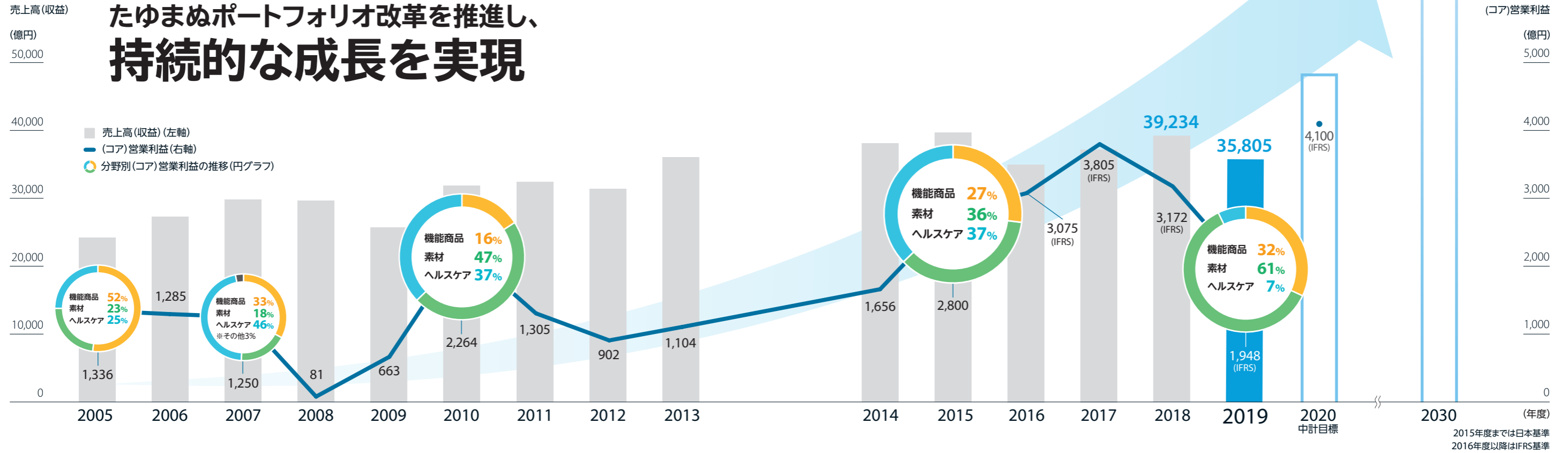


ポートフォリオ改革の軌跡と中期経営計画の振り返り



M&A・統合による企業規模の追求、不採算事業の構造改革

機能商品、素材、ヘルスケア分野の事業を通じて、高成長・高収益型の企業グループをめざす

社会の潮流とステークホルダーの要請を視野に、価値創造サイクルを推進して持続的に成長=KAITEKI実現

中期経営計画とポートフォリオ改革 ● 成長施策 ▲ 構造改革

革進-Phase2 2005-2007年度	APTSIS 10 2008-2010年度	APTSIS 15 2011-2015年度	APTSIS 20 2016-2020年度
<p>レビュー</p> <p>医薬事業の比率を高め、景気変動に左右されにくい収益構造へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 三菱ケミカルホールディングス設立(2005年) <p>医薬事業の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 田辺三菱製薬発足(2007年) <p>次期中計への課題</p> <p>機能商品分野における成長ドライバーの創出と不採算事業の構造改革</p>	<p>レビュー</p> <p>機能商品分野の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 三菱樹脂、三菱化学の機能材料事業・関連会社(3社)を統合(2008年) ● 高機能エンジニアリングプラスチック事業のQuadrant AG連結子会社化(2009年) <p>高付加価値事業にポートフォリオをシフト</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 三菱レイヨン連結子会社化(2010年) ▲ ナイロンチェーン事業撤退(2010年) ▲ 塩ビチェーン・SMチェーン事業撤退(2011年) <p>次期中計への課題</p> <p>素材分野の構造改革、および収益安定化さらなる高機能・高付加価値化へのシフト</p>	<p>レビュー</p> <p>素材分野の構造改革および産業ガス事業連結化による収益安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ポリオレフィン生産最適化(2014年-2015年) ▲ 鹿島(現茨城)ナフサクラッカー1基化(1基削減)(2014年) ● 大陽日酸 連結子会社化(2014年) ▲ 水島(現岡山)ナフサクラッカーJV共同運営化(2016年) ▲ テレフタル酸インド・中国事業株式譲渡を決定(2016年) <p>高機能・高付加価値化へのシフト</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日米欧を拠点とするカプセル・製剤機器事業のクオリカプス連結子会社化(2013年) ● 生命科学インスティテュート設立(2014年) <p>コーポレートガバナンス体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指名委員会等設置会社への移行(2015年) <p>次期中計への課題</p> <p>グループの協奏促進と成長、グローバルマネジメント体制の整備と低収益事業の抜本的対策</p>	<p>レビュー</p> <p>統合による機能商品分野の成長加速</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本合成化学工業完全子会社化(2016年) ● 化学系3事業会社統合(三菱化学、三菱樹脂、三菱レイヨン)による三菱ケミカル発足(2017年) <p>継続的な事業再構築による基盤強化と成長分野への投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中東MMA新プラント(The Saudi Methacrylates Company)本格稼働(2018年) ● M&Aによる産業ガス事業のグローバルシェア拡大(2018年/2019年) ▲ LSIメディアエンス株式交換によるPHCホールディングス(株)との戦略的資本提携(2019年) ▲ 記録メディア事業撤退(2019年) ● 田辺三菱製薬完全子会社化(2020年) <p>グローバルマネジメント体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 三菱ケミカルのリージョナルヘッドクォーター設立(2017年) <p>デジタルトランスフォーメーション(DX)の加速</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 先端技術・事業開発室設置(2017年) <p>APTSIS 20の進捗詳細は 社長メッセージ▶P19 中期経営計画の進捗▶P27</p>